

特許・意匠・著作権などによるソフトウェアの横断的保護・活用

<スマートフォンの例>



- スマートフォン等の情報機器は、目に見えるもの（外観・画面・入出力）から見えないもの（内部処理）まで、多種多様な機能によって構成
- ほとんどの機能がソフトで実現される現状で、どのようにして知的財産で事業を守るべき？

ビジネス戦略？

社内連携？
(企画, 営業, 開発)

画面デザイン
保護？(JP)

ソフトウェア関連事業についての特許、意匠、著作権、あるいは商標を用いた横断的な保護・活用を検討

「日米欧コンピュータ・ソフトウェア（CS）関連発明判例集」

「見開き判例ガイド～ソフトウェア関連発明～」発行 (2013年5月)



日米欧の主要な38判例を収録

【書誌事項】
特許番号等

【事件の概要】
争点、判決

【発明の概要】
図面等

【判決内容】
判決のエッセンス

【コメント】
実務へのヒント

見開き構成で内容
が一目で早分かり

ガイドを基礎とする臨時研修会(R36)を開催 (2013年12月)



- ・ CS関連発明の**米国での保護の変遷**
- ・ 日米欧の**域外適用の判断**

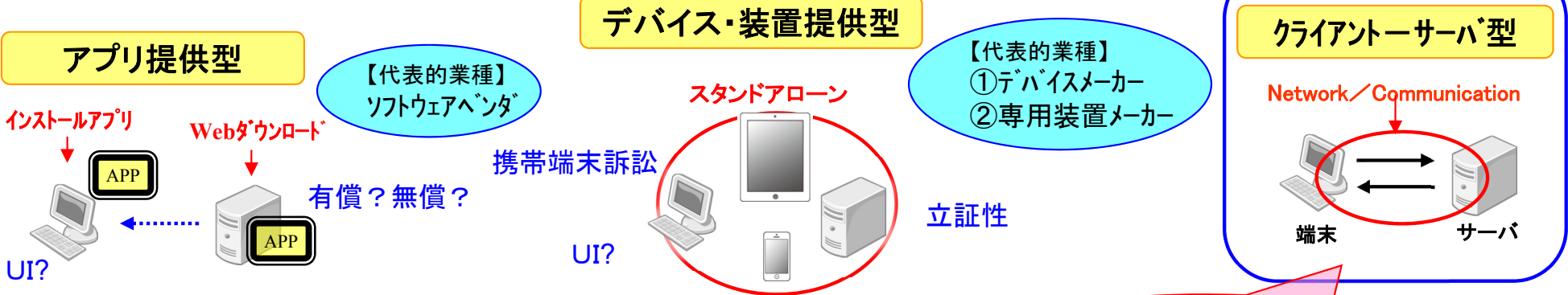
- ・ **未収録の最新判例の紹介**
- ・ **Means Plus Functionクレームの取扱い**

事業形態に応じた出願戦略の方向性に関する調査・研究

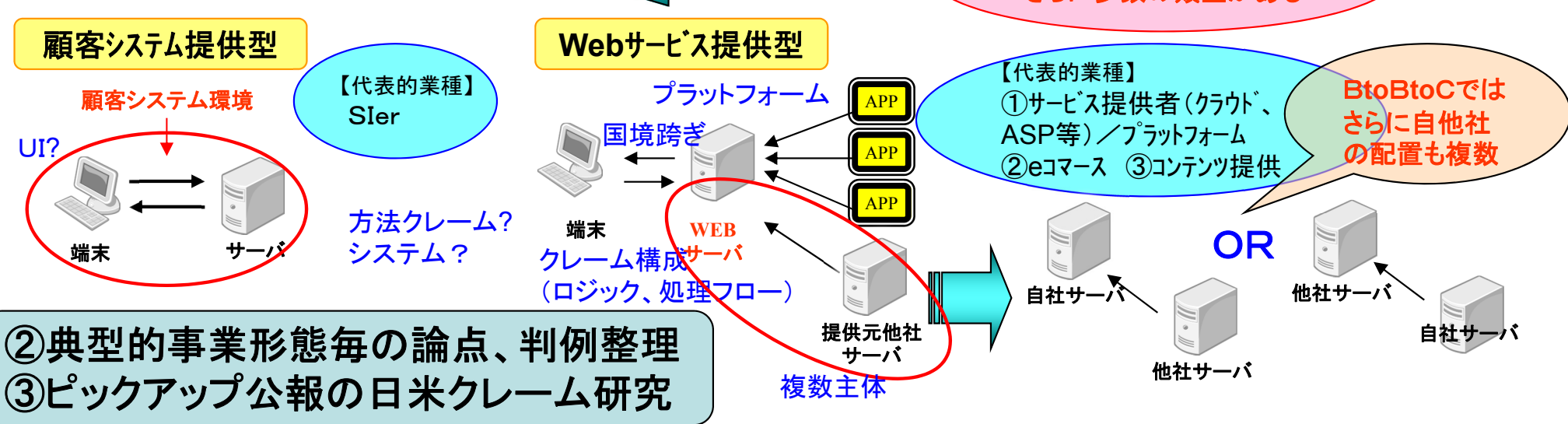
①企業の事業形態の洗い出しと典型的事業形態毎の整理

※図中青字は主な調査・研究材料、論点

《典型的事業形態(3形態)》



《クライアントサーバ型の類型化》



- ②典型的事業形態毎の論点、判例整理
- ③ピックアップ公報の日米クレーム研究

事業形態に応じた出願戦略(クレーム作成方針など)を知財管理誌に投稿予定

「サービス・グローバル化時代の事業保護のあり方」に関する研究

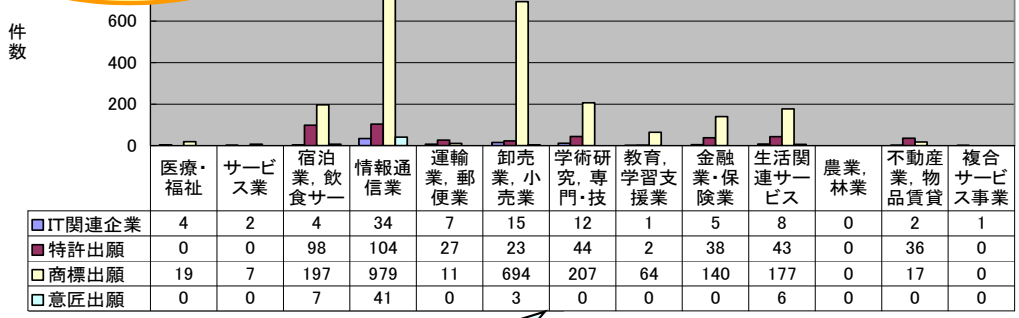
サービスを守るには

ビジネスモデル特許?
要素技術特許?
UI特許?意匠?
ブランド戦略もあるか?

- サービス産業生産性協議会「ハイ・サービス300選」で選定された企業(269社)を対象にサービスと知的財産権の関係を分析
- 選定企業を業種、サービス提供におけるIT利用の有無で分類。抽出した特許等を収益源、サービス提供時期との関係等様々な観点で整理・分析

IT利用有の企業について分析

業種により商標出願件数に大きな違いがみられるなど、知財保護戦略に違いが見られる



IT利用無企業も含めると、卸・小売業は3000件強
教育関係は4000件弱
に商標出願が変動

企業のサービス提供時期と特許出願の関係について分析

年月日	サービスと特許出願
2000/1	「**Webサイト」正式運用開始
2000/6/30	特開2001-273432
2000/7	「〇〇ソリューション」提供開始
2000/11/16	特開2002-157445
2000/11	「**Webサイト」の他サイトとの連携サービス開始
2001/4	「△△ソリューション」提供開始
2001/8/20	特開2003-58553
2002/1/22	
2002/12/4	特開2004-185389
2003/3/4	特開2004-265349
2003/10/1	特開2005-108067
2004/3/10	特開2005-258705

今後の活動

- ハイ・サービス300選から選定した企業の分析継続
- グローバル視点も含め、海外企業や大手企業など、同種サービス企業を分析対象に追加し、サービス内容に応じた知財戦略を分析

サービス内容(種別)に応じた知的財産戦略の提言を次年度に予定